

## 会 議 録

### 1 会議名

令和2年度 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

### 2 議題（全て公開）

- (1) 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会について
- (2) 平成29年度～令和元年度 協議会専門部会の取組まとめ
- (3) 令和2年度～4年度 上越地域が目指す在宅医療・介護連携のビジョン

### 3 開催日時

令和2年7月16日（木）午後7時から午後8時15分まで

### 4 開催場所

上越市教育プラザ 大会議室

### 5 傍聴人の数

0人

### 6 非公開の理由

—

### 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

委員：高橋慶一、長谷川正樹、原省司、揚石義夫、相澤由美子、浅野広美、小宮山陽子、藤本智恵、森橋恵子、早津敏彦、石原到、丸山許江、関原礼敏、石田さとみ、山田洋子  
（出席15名 欠席1名）

事務局：上越市

- ・市川均福祉部長
- ・すこやかなくらし包括支援センター  
渡辺晶恵所長、岩崎一彦次長、高宮輝行上席社会福祉士長、  
福田明副所長、佐藤麻由子保健師長、板垣綾子主任、長谷川大主任、坪井裕章主任、岩井美晴主任
- ・高齢者支援課  
橋本慎一副課長、小松浩之係長

妙高市

- ・福祉介護課  
岡田雅美課長、西條保課長補佐、保坂あかね係長、長谷川美代主査、原田浩成主査、山崎名歩子保健師

### 8 発言の内容（要旨）

#### ○ 開会

- 挨拶 市川福祉部長
- 委員紹介 委員、事務局の紹介
- 正副会長の選出 高橋慶一委員を会長に、藤本智恵委員及び森橋恵子委員を副会長に選出

○ 議事

- (1) 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会について

<資料1に基づいて説明>

- (2) 平成29年度～令和元年度 協議会専門部会の取組まとめ

<資料2及び資料3「提言」に基づいて説明>

(意見交換)

早津委員： 昨年度までの3年間、入退院時支援部会に関わらせていただいた。部会では、在宅の方が入院した時、または退院し在宅に帰るときの連携について、この時期にはこれをするとといったルールづくり等をそれぞれの専門職の立場を超えて話し合いを行った。協議の過程で、「地域連携連絡票」が一本の柱となって関係機関が繋がっていくような感触を得た。「地域連携連絡票」、「MCネット」がこれまでの連携の推進において、道標となっており、今年度から関わっていただく皆様にもご協力をお願いしたい。

小宮山委員：「地域連携連絡票」は、当病院にとって患者の日常生活を把握する上で欠かせない情報となっており、引き続き、ケアマネジャーからの提供をお願いしたいと考えている。また、院内で「地域連携連絡票」をどう看護に生かしていくか、研鑽を深めていきたい。また、昨年7月と12月に、妙高市の主任ケアマネジャーと看護師の研修会を行った。顔の見える関係づくりが改めて大事であることを実感した。病院の看護師は急性期の患者という視点で患者を見てしまいがちだが、生活者として捉える視点も加えていく必要性を感じている。今後もケアマネジャーとの交流会など、機会があれば当院としても参加していきたい。

- (3) 令和2年度～4年度 上越地域が目指す在宅医療・介護連携のビジョン

<資料4、資料5に基づき説明>

(質疑)

石田委員： 「提言」にある「地域連携連絡票」を地域として、多職種との連携ツールとして活用していくことになったと認識している。

私も日々「地域連携連絡票」の作成を行い、情報提供を行っている。

「提言」では、「地域連携連絡票」の添付もしくは代用により、各種

申請書類の省略が可能になるよう行政が調整を図るとの文言が記載されているが、未だに上越市内のサービス事業所から事業所独自の申込書の提示を求められるのが実態であり、「地域連携連絡票」の活用が広がっていないと実感している。サービス事業所等との調整や周知の状況はどうなっているか。

橋本副課長：ケアマネジャーが作成する種々の書類について、「地域連携連絡票」の添付もしくは代用を可能とし、ケアマネジャーの業務負担の軽減を進めるよう市へ提言をいただいたところだが、サービス事業者との協議に至っていない。今後、ケアマネジャーや地域包括支援センター、サービス事業所等と協議を進めながら、どのような対応が可能か検討を進めていく。

浅野委員：昨年度から会議に参加させていただき、感じることは、「地域連携連絡票」を利用するかしないかは、ケアマネジャーの判断に任されているのが現状であり、結果として開業医との連携が取れているケアマネジャーは少ないように感じている。

ぜひ、「地域連携連絡票」を市として重要だと考えるのであれば、前に進める方策を考えていただきたい。

橋本副課長：ケアマネジャー、地域包括支援センター等と丁寧に協議しながら、「地域連携連絡票」の活用について、検討していく。また関係する部署とも横の連携をとって進めていく。

浅野委員：いつまでに取組むという目標をお聞きしたい。

橋本副課長：現時点でいつまでとは断言できないが、関係機関と協議したうえで、スケジュールを組んで対応していきたい。

揚石委員：「地域連携連絡票」の重要性については、この3年間の成果として、皆さんの認識は共有できていると思うが、実際の活用となると、ケアマネジャーの負担は大変大きいと思う。

業務の負担を軽減できる部分を作ったとしても、ただ市が作りなさいと指示するだけでは、地域への普及は難しい。私が言いたいのは、ケアマネジャーへの支援の一つとして、「地域連携連絡票」を作ることが、非常に有用であるというスタンスで進めて欲しい。それから市が言うだけでなく、ケアマネジャー自身が自主研修を実施するなど主体的に取り組んでいくことが大事であると思う。

行政も頑張る、現場のケアマネジャーも主体的に取り組んでいくという、両面がないと、地域へ広がっていかない。どう広めていくかについては、今後の専門部会の主な活動とは若干異なるが、入退院連携推進部会の中でも、引き続き声を上げてやっていくことが必要

であると思う。

石田委員：MCネットについて、上越地域ではたくさんの居宅支援事業所がMCネットに加入している。もっと多くの開業医の先生たちが加入してもらえれば、情報提供とか、困り事が常に相談できる環境になり、医療と介護の連携が進むと思う。

相澤委員：開業医の先生も、利用者の生活情報などを入手するために、ケアマネジャーとの連携は欠かせないと考えている。しかし、先生は大変多忙である。また、机上に電子カルテや画像診断用の画面などの複数のOA機器があり、MCネットの入ったパソコンを置けないような状況もある。効率的に必要な情報が確実に入手できることが先生の思いだと考える。地域連携連絡票の活用をきっかけに、顔の見える関係づくりを進めていくことが第一歩であると思う。こうした取組と合わせ、コロナ渦でICTの活用は非常に便利でもあるため、引き続き医療機関にMCネットの加入の促進を図っていきたい。

石田委員：上越地域居宅介護支援事業推進協議会では、この秋に「地域連携連絡票」が役立つという視点での研修会の開催を予定している。その中で地域のケアマネジャーに広めていきたい。

揚石委員：石田委員のおっしゃる通りで、多くのかかりつけ医がMCネットに参加してもらえるよう取り組んでいきたい。

また、提言についてだが、「提言」の文言は、協議会の中で練り上げ作ったものであり、一言一句、無駄な文章はない。今日の質疑の内容はほぼこの「提言」の中に含まれているので、ぜひ一言一句かみしめて、皆さんで進めていってほしい。

市川福祉部長：委員の皆様から、「地域連携連絡票」の取扱いにおいて、ケアマネジャーの負担も考慮せねばならないというお話もあった。また、本日は、市からの指示だけでなく、地域連携連絡票を利用する皆様方の主体性を大事にしたいという言葉もいただいた。このような取組を進めていく上では、皆様が納得した上で、自らの気持ちで進めていくということが大事であるので、しっかりと我々も受けとめ、進めていきたい。

<資料4、資料5のとおり承認>

○ その他

令和2年度、上越市・妙高市在宅医療介護連携協議会専門部会委員（別紙）

<別紙名簿に基づき説明>

○ 閉会

9. 問い合わせ先

福祉部 すこやかなくらし包括支援センター（福祉交流プラザ 2階）

TEL： 025-526-5623

E-mail：[sukoyaka@city.joetu.lg.jp](mailto:sukoyaka@city.joetu.lg.jp)